

## 第16回宮崎国際音楽祭の内容変更について

はじめに、東日本大震災の犠牲になった多くの方々に、心から哀悼の誠を捧げたいと思います。また、無残な荒野と化した海岸線の皆様には、お見舞いの言葉も見当たらない思いです。「3・11大震災」は日本の命運をも変える、巨大すぎる不幸だったと思います。

そのような状況を受けて、今年の「宮崎国際音楽祭」は大震災復興支援のためのチャリティ音楽祭とさせていただきます、鎮魂と復興への願いを込めて開催することにいたします。

すでに発表しております「第16回宮崎国際音楽祭」は、この大震災の影響を受けて海外からの出演者の多くが来日できなくなったために、プログラムを大幅に変更せざるを得なくなりました。

5月1日（日）の演奏会〔1〕ですが、ジュリアン・ラクリンが・ボリス・ベルキンに代わります。この変更に伴って、「ヴィヴァルディの四季」を三浦文彰が、「ブエノスアイレスの四季」を徳永二男が演奏いたします。

5月7日（土）の演奏会〔2〕「若き巨匠ラクリンの芸術」は、ジュリアン・ラクリンが出演できなくなったために内容と演奏日時を全面的に更新して、5月14日（土）に「東日本大震災復興支援チャリティコンサート」として開催します。ピンカス・ズーカーマンをはじめ諏訪内晶子、アマンダ・フォーサイス、ボリス・アンドリアノフ、徳永二男など、主な出演者の総出演を予定していません。

まことに残念ですが、5月3日（火）に川南町で開催予定だった「チャイコフスキー・トリオ演奏会」は、演奏者が来日できなくなったことにより公演中止となります。この公演は口蹄疫復興支援のための演奏会でもあったことから、後日別途の企画で実施することにしたいと考えています。

5月15日（日）に予定されていた「典雅なるウィーンの室内楽」は、ウィーンフィルメンバーによる弦楽六重奏曲演奏会でしたが、演奏者がそろわないため中止となり、巨匠ピンカス・ズーカーマンがヴァイオリン、ヴィオラ、指揮と多彩な顔を披露する「ズーカーマンの夕べ」に代わります。

そのほかのコンサートにも、出演者や曲目の変更がありますが、詳細は新しいプログラムを参照して頂くようお願い申し上げます。

全国各地で多くのコンサートが中止や延期に追い込まれていることはご存知のとおりですが、宮崎国際音楽祭は幸運なことに中止の瀬戸際から立ち上がる事が出来そうです。それは、ピンカス・ズーカーマンやボリス・ベルキン、諏訪内晶子など、宮崎国際音楽祭の歴史を築いた世界的巨匠たちが、原発事故をめぐる様々な憶測にもかかわらず、急遽駆け付けてくれることになったからです。結果として、今年の音楽祭は例年にもまして充実したプログラムになりそうです。心から感謝を申し上げたいと思います。

なお、すでに発表していることではありますが、第16回宮崎国際音楽祭は、東日本大震災のチャリティ・イベントとして、チケット収入の10%を寄付させていただくことにしています。さらに、演奏会当日にも募金を行うほか、出演者の協力を得てチャリティサイン会を企画するなど、被災地復興支援活動の充実に努めてまいります。

最後に、宮崎国際音楽祭を支えてくださっている皆様に一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、「宮崎から東北へ」さらに大きな支援の声を届ける事が出来ますように心から願っています。

平成23年4月21日

財団法人 宮崎県立芸術劇場  
理事長 青木 賢児